

# ACCELERATE TO THE FUTURE

## AXELL Investor Relations 第15期 中間報告書 2009.4.1—2009.9.30

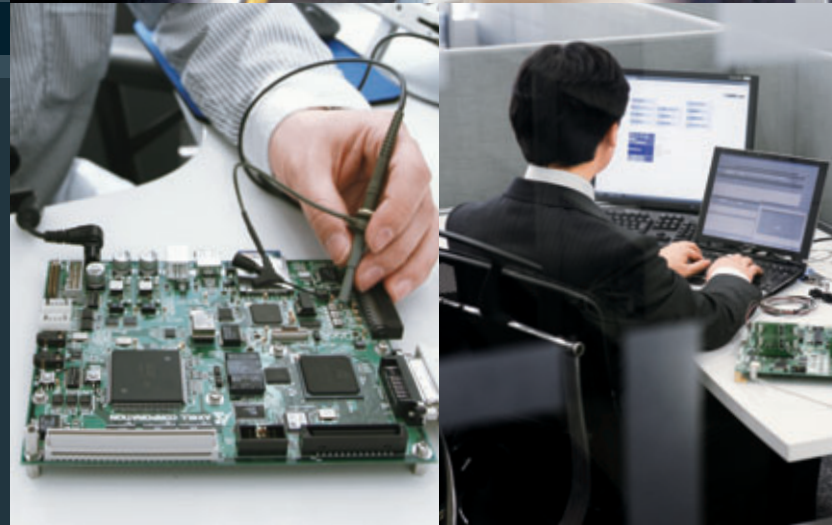
### CONTENTS

イントロダクション	2
社長メッセージ	3
特集1: アクセルのコーポレート・ガバナンス	6
特集2: アクセルの社会貢献活動	8
トピックス／IRカレンダー	10
第15期中間業績のご報告 数字で見るアクセル	12
株主さまアンケートのご報告	14
会社概要／株式の状況	15

# グラフィックスとサウンドで 感性に響く感動を伝えたい

## 企業理念

- 1 最先端のLSI設計技術を生かし、グラフィックス及びサウンド関連の製品化を事業の核とする革新的な研究開発型半導体メーカーであり、以下の事項を確保していく
  - 高度な専門知識を持つ精鋭頭脳集団であること
  - 独自の新技術、新製品を創造すること
  - 工場を持たないファブレス企業であること
- 2 株主、従業員、顧客、取引先等全ての利害関係者を配慮したガバナンス体制を確立する
- 3 法令・定款・規則を遵守し、また、適時、適切な情報開示を行う
- 4 情報管理に十分配慮した上で、オープンで自由な企業風土を維持し、業容拡大を目指すとともに業容に即した社会貢献を行う



# 厳しい経済環境に立ち向かう アクセルらしい挑戦を開始します

## 株主の皆さまへ

### 厳しい経済環境のなか、増収増益を達成

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のことと拝察申し上げます。ここにAXELL Investor Relations(第15期中間報告書)をお届けいたします。

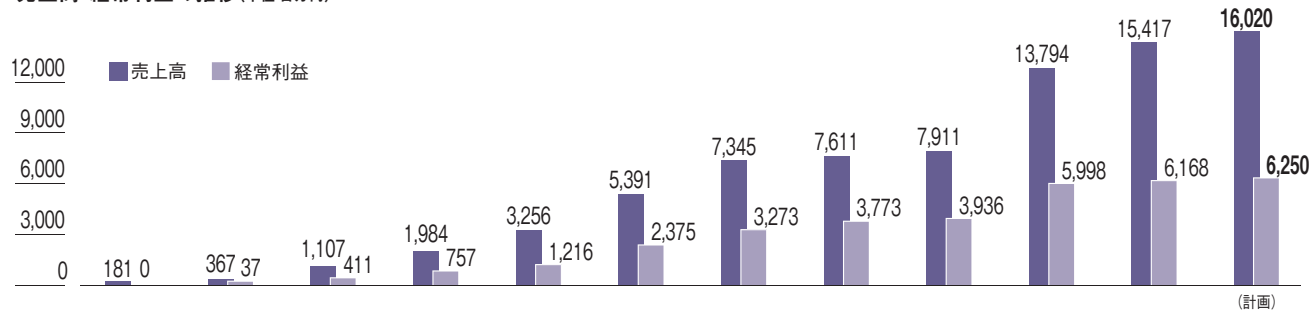
2010年3月期(第15期)第2四半期(以下、当中間期)の業績は、遊技機器市場向けグラフィックスLSI製品の堅調な販売動向を背景に、前中間期の売上高を上回る7,753百万円(前年同期比3%増)の売上高となりました。また、中間業績計画との比較においても、売上高は若干未達となり

ましたが、売上総利益以下の各利益において計画を上回る結果となりましたことは、取引先の皆さまを初めとした多くの方々のご指導、ご鞭撻の賜物であると考えております。第15期も折り返し地点を通過し、11期連続の増収増益達成と将来の成長に向けた事業活動に邁進してまいりたいと考えております。株主の皆さまにおかれましては、引き続きご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

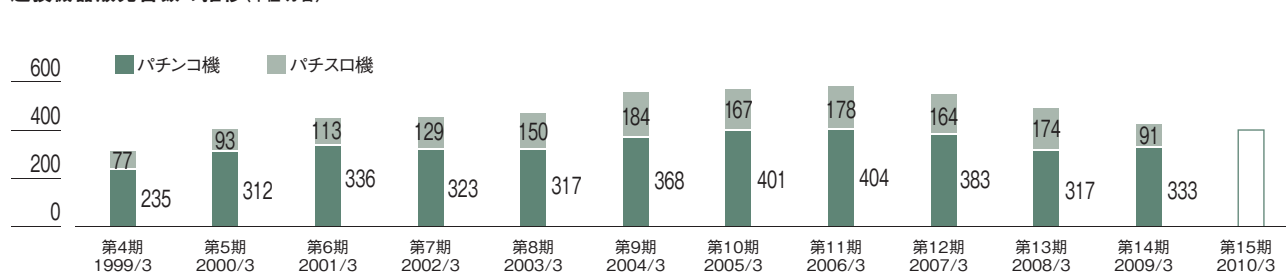
取締役社長 佐々木 譲



売上高・経常利益の推移 (単位:百万円)



遊技機器販売台数の推移 (単位:万台)



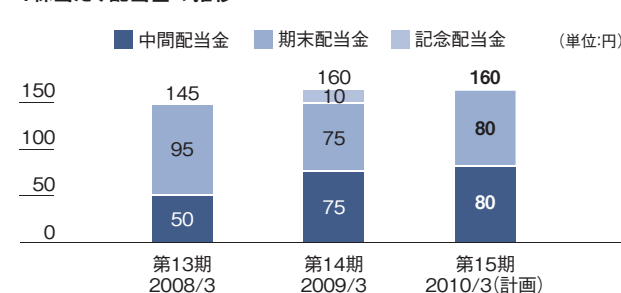
※上記の遊技機器の年間販売台数は、調査機関の公表データと当社の独自分析による数値です。  
 ※第15期における遊技機器の年間販売台数は、現時点における当社推定です。

第15期中間期の業績

(単位:百万円)

	中間実績	中間計画	通期計画
売上高	7,753	7,960	16,020
売上総利益	4,548	4,530	8,950
営業利益	3,249	3,190	6,240
経常利益	3,256	3,195	6,250
純利益	2,010	1,975	3,860

1株当たり配当金の推移



※第13期、第14期につきましては、株主分割に伴う影響を調整した数字を記載しております。

## 市場動向について

### 主力の遊技機器市場は、堅調に推移

当中間期の遊技機器市場動向といたしましては、世界規模の経済不安や新型インフルエンザ蔓延、過年度に実施された遊技機器規則改正の影響による市場の縮小等の影響が当期首において懸念されておりました。このような環境下においてパチンコ機は、大型液晶表示装置をゲーム性の中心に位置づける機種が依然として好調に推移するとともに、パチスロ機においても一部に積極的な製造

の動きが見られるなど、全体的に堅調な推移になったものと分析しております。

以上の結果、当中間期のグラフィックスLSI製品の販売個数は、現在の主力製品に加えて従前主力製品ともに前中間期を上回り、136万個となりました。

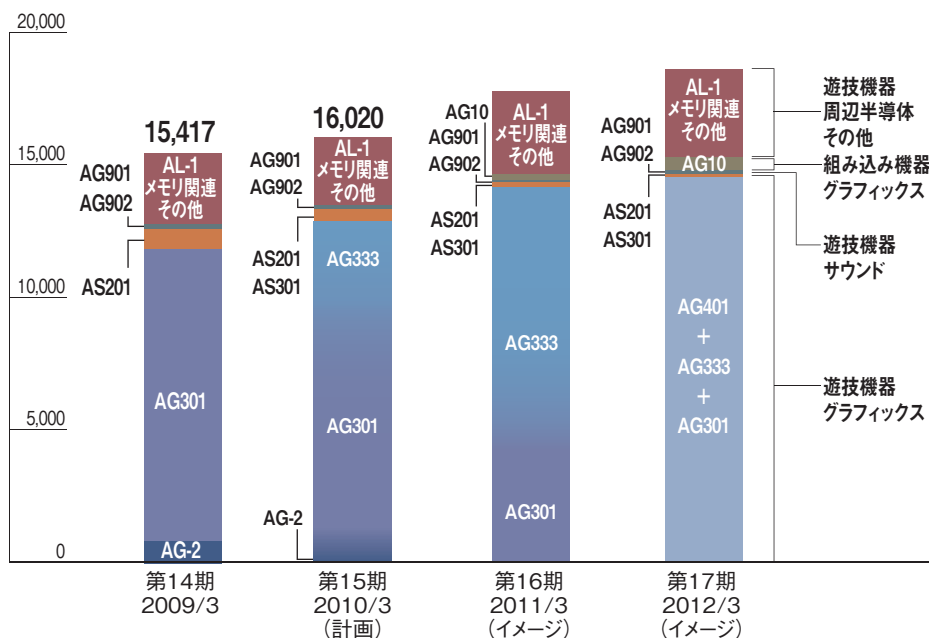
### 下期・通期の見通しについて

#### 収益は概ね当初計画を達成見込み

当中期における遊技機器市場は、当中間期に引き続き好調に推移するものと予測しております。また、パチスロ機に

関しては、厳しい状況であることに大きな変化は見られておりませんが、液晶表示装置の搭載率の増加傾向等の動きなどから徐々に回復していく可能性があると分析しております。販売製品構成に於ける異動は見られるものの、概ね当初計画に沿うものになると見込んでおります。以上により、第15期の売上高は16,020百万円、営業利益6,240百万円、経常利益6,250百万円、当期純利益3,860百万円の当初計画は変更していません。また、配当計画につきましても、1株当たり中間配当80円、期末配当80円の年間配当160円を実施の予定です。

製品の売上高推移(単位:百万円)



## 第15期までの概要

- ・「AG301」への移行が促進
- ・遊技機器向けマルチ機能LSI「AG333」の販売開始
- ・AL-1シリーズの強化
- ・組み込み機器市場向けLSI「AG10」の販売開始

## 第16期以降の概要

- ・「AG333」への移行が促進
- ・メモリ関連の製品展開
- ・次世代圧縮「RM3」の登場
- ・「AG4」の開発、販売
- ・「AG10」の販売拡大

## アクセルが切り開く2つの市場と独自の製品群

## 遊技機器市場(年間400万台の大市場)

現在、遊技機器はゲーム性の向上を進めており、ゲーム性の構成要素である画像・音声・LEDの重要性が増しつつあります。当社ではこのような流れを踏まえて、グラフィックスLSI、サウンドLSI、LEDドライバLSI等の多様な製品を同市場に向けて開発、販売しています。また、当中間期には、グラフィックスLSIにサウンド、LED制御機能等を統合したLSI「AG333」を市場投入しています。

グラフィックスLSI



AG301 AG333

サウンドLSI



AS201 AS301

LEDドライバLSI

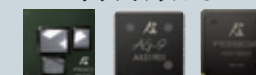


AL-1シリーズ

## 組み込み機器市場(多品種、中～少量生産)

当社は、産業用機器及び一般消費者向けの各種組み込み機器の画像表示システムの中核を担うグラフィックスLSIを開発、販売しています。当社では、コスト・基板サイズ・使用部品のジェネレーション・画像の解像度・熱効率等といった問題から画像表示システムを搭載することが困難とされていた各種組み込み機器への搭載を想定したグラフィックスLSIを開発、販売しています。

グラフィックスLSI



AG10 AG901 AG902

## 今後の展望

## 2つの市場で強みを活かした販売展開

これまで当社では、遊技機器市場に向けたグラフィックスLSIの高機能化、高付加価値化を進める一方、サウンドLSI製品、LEDドライバLSI製品などによる製品多様化により、10期連続の増収増益という継続的な成長と営業利益率40%を超える高い収益性を実現してまいりました。

今後、当社では、同市場に向けた機能統合化製品「AG333」の販売拡大に注力するとともに、次世代製品

に向けた描画機能や画像圧縮伸長技術、開発支援環境の更なる進化などに注力することにより、更なる高みを目指していきたいと考えております。また、当社では、市場複合化として遊技機器市場以外の組み込み機器市場への展開にも注力しております。今回、インテル社と連携して開発を進めておりましたグラフィックスLSI「AG10」の開発が終了したことを受けて、国内のPOS端末、金融端末等に向けた営業活動を推し進めることにより国内組み込み機器市場での礎を構築していきたいと考えております。

## 機動的かつ効率的な体制と運用で、 企業価値の向上を図ります

### コーポレート・ガバナンスの目的

企業を健全に運営するための仕組みであり、経営者への権限集中による弊害や組織ぐるみの違法行為を監視・阻止すること、企業理念を実現するために業務活動が適切に行われているかを監視することが大きな目的です。

### Corporate Governance

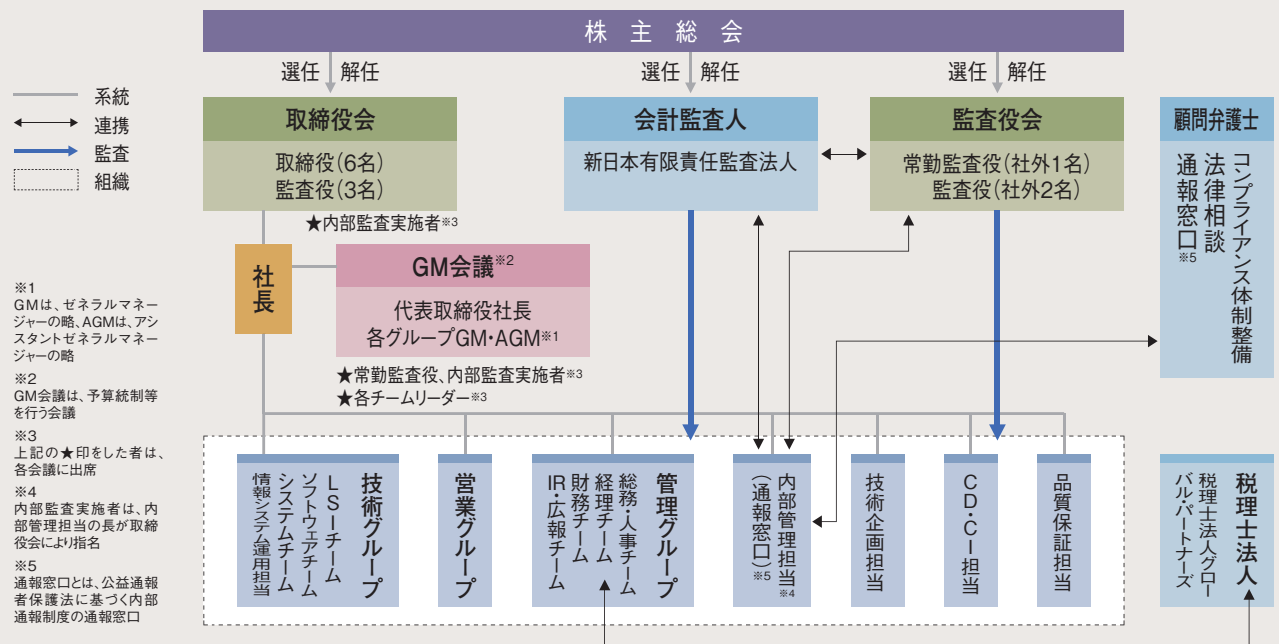
資本市場のグローバル化・多様化が進み、投資判断においてもコーポレート・ガバナンスのあり方が重視されている昨今、コーポレート・ガバナンスの充実は、企業価値を高めるために重要な経営課題となっています。こうした中、アクセルでは、株主さまをはじめとしたステークホルダー（利害関係者）の信頼を高めるため、経営の透明性、健全性を確保するための取組みを継続的に行なっています。

### <アクセルの行動規範>

- ① 公の企業としてその社会的責任を果たすために別途掲げた企業理念※に基づき行動し、継続的な成長を目指す
- ② 法令等遵守はもとより、社会の構成員として企業に求められる価値観・倫理観を堅持するとともに、役員・従業員とともに環境問題を含む社会生活の場をより豊かにするテーマに前向きに取り組む
- ③ 品質方針を定め、顧客が満足するより良い製品・サービスを継続的に提供する
- ④ 役員・従業員は相互に人格・人権を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、創造性に満ちたやりがいのある企業とする
- ⑤ 反社会的勢力には毅然とした態度で対応し、利益供与は一切行わない
- ⑥ 役員・従業員はこの行動規範を十分理解し、行動する。特に上位者は常に率先垂範の上、行動規範に違反する事態が生じないよう、社内教育を徹底する
- ⑦ 行動規範に違反する事態が発生した場合には、経営トップが率先して全社で問題解決・再発防止策の策定に当たるとともに、社内外に対し迅速かつ的確な情報開示を行い、その説明責任を果たす

※企業理念については2頁イントロダクションをご参照ください。

## コーポレート・ガバナンス体制図



詳細は、当社ホームページでご覧になれます。



ここから  
コーポレート・  
ガバナンス  
報告書の  
PDFを  
入手できます。

内部統制システムの状況  
<http://www.axell.co.jp/jp/ir/general/governance.html>

### 効率的かつ実効性のあるガバナンスを目指して

当社は、経営のスピードとガバナンスの両立を目指した内部統制システムを構築して、経営を行なっています。株主総会による経営陣の選任から始まり、取締役会(代表取締役を含む各取締役)・監査役会(常勤監査役を含む各監査役、全員が社外監査役)・会計監査人及び内部監査実施者・内部管理担当・顧問弁護士等が連携した内部統制システムを構築することにより社会的責任を全うする主体たりうる企業統治を実践しています。企業理念・行動規範

を企業及び構成員の活動規範として掲げるとともに、上図のような内部統制システムを構築し、社内規程体系の整備と構成員各自が当該規程類を遵守することにより実効性のあるコーポレート・ガバナンス体制の構築を目指しています。

### J-SOX対応について

当社では、金融商品取引法の規定に基づき、2009年3月期から適用される「財務報告に係る内部統制の監査及び評価」の運用開始に向けた体制整備を行い、会計処理の

健全性、財務報告の信頼性を向上させるための財務報告に関する内部統制手続きの文書化及び財務諸表の開示に関する手続きの明確化等を図りました。これを受けて、2009年3月期におきまして、1.財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項、2.評価の範囲、基準日及び評価手続きに関する事項に関して当社代表取締役による有効性評価を実施し、有効と判断し内部統制報告書を作成いたしました。また、会計監査人による2009年3月期における内部統制報告書の監査の結果は、無限定適正となっています。

# 産学共同のIT育成プログラム: 将来の組み込み技術者を輩出する 筑波大学「組み込み技術キャンパスOJT※」開講

当社では、近年指摘されている組み込み技術者の不足に対応し、筑波大学にキャンパスOJTを開講(2009年4月)いたしました。学部教育の早い段階から社会的ニーズの高い実践的な教育を大学との密接な連携のもとで実践し、組み込み技術に関するモチベーションを高め質の高いエンジニア・クリエイターの輩出を目指しています。



LSI開発シミュレーション画面  
設計されたLSIの回路をPC  
上で回路動作を確認するた  
めのメンター・グラフィックス社  
製回路シミュレータ



Orange Room  
(Hardware)

## 「組み込み技術キャンパスOJT」について

筑波大学の情報学群(学群:学部に相当)にある情報科学類及び、情報メディア創成学類(学類:学科に相当)の3・4年生を対象として、ハードウェアコースとソフトウェアコースを設定し(定員:各12名)、組み込み技術を実践的に教育するプログラムです。この教育プログラムは当社のCSRの一環として、当社からの寄附金で運営を行い、指導する教員も当社と当社に協力しているネットディメンション社から現場のエキスパートを派遣しています。



「組み込み技術キャンパスOJT」のホームページ  
<http://inf.tsukuba.ac.jp/ET-COJT/>

## 「組み込み技術キャンパスOJT」は、足を運びたくないような空間

- ・教室はキャンパスOJTのコンセプトに基づきデザイン  
ブルールーム(ソフトウェア実習室) / オレンジルーム(ハードウェア実習室)
- ・空調やセキュリティ機能も完備し、各受講生に割り当てられた机を用意
- ・受講生においては24時間入退出可能  
受講生は授業時間以外にも好きな時間に教室を利用して実習を行うことが可能

※OJT:職業訓練法の一つで、実際の実務を通じて職務上のトレーニングを行うこと。



コンテンツ制作を行うオーサリングツール画面  
組み込み機器上で動作させるコンテンツをPC  
上で2D・3D画像、音響を統合して制作する  
ことが出来るネットディメンション社製オーサリ  
ングツール

## Blue Room (Software)



## IT／育成プログラムのコースと環境

近年の組み込み機器は、コンテンツ、ソフトウェア、ハードウェアが密接に関連し三位一体となって出来ており、優れた機器の開発においては知識(形式知)と技能(暗黙知)を持った技術者が必須です。そういった人材を育てるため、各コースで次のような内容の講義を行なっています。

### ●ハードウェアコース

当社のグラフィックスLSIを題材にそこで用いられている技術内容を講義するとともに、その一部の機能を設計後FPGA※に回路を実装しプログラミングも行いながら動作させます。

### ●ソフトウェアコース

映像製作の基礎技術をはじめ、ユーザーインターフェースを考えたコンテンツの製作、「AG333」評価基板を利用したゲームの企画立案からソフトウェア実装などを行います。

※FPGA:プログラミング可能なLSIのこと。

## 実践感覚で技術を教え、 世界に通じる技術者を育てたい

OJTで利用する機材は、実際に企業での製品開発に利用しているものを配備しており、開発実習のフローも同じように行なっています。例えば、ハードウェアコースでのLSIの回路開発の実習は、回路の基本構成を考えた後、Velilogと言われる回路設計用の言語を利用して回路の論理構成をします。その回路が正しいかをコンピュータ上でシミュレーション(擬似実験)を行い、正常に動作することを確認した後にLSIを作成します。(実習の場合はFPGAへ回路を書き込み)その後、作成したLSIとそのLSIを動作させるためのCPUやメモリなどを実装したボード(基板)でLSIの動作を確認します。複雑な回路の場合、その構成の仕方はとても数多くあるので正しく構成できているかの確認もかなり難しくなります。また最適な構成にたどり着くまでにはスキルが必要になりますので、個人差が出てくるところです。このような事を学生が経験する事で優れた人材を生み出せるのではないかと考えています。

株式会社アクセル  
技術企画担当  
シニアマネージャー  
筑波大学客員教授  
森屋 和喜



## アナリスト向け 決算説明会を実施

IR

当社では、通期及び中間期の決算発表当日に、アナリスト向け決算説明会を継続して実施しています。4月28日に行われた第14期決算説明会では、50名のアナリスト、ファンドマネージャー及び報道関係者に参加いただきました。また、当日の様子は当社ホームページにおいて動画配信を実施しています。



動画配信

2009/4~6

## 個人投資家向け 会社説明会を開催

IR

当社では、株主さまをはじめ個人投資家の皆さまの声を直接お聞きする場として、積極的に個人投資家向け会社説明会を開催しています。当中間期においては、4月29日(東京)、8月20日(福岡)、21日(名古屋)で説明会を開催しました。

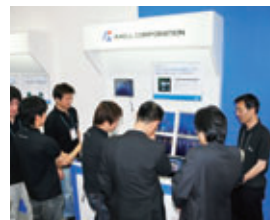


4月29日開催の説明会風景

## 組み込みシステム開発技術展 (ESEC2009)に「AG10」を出展

イベント

2009年5月13日から3日間、組み込み技術における総合展示会 ESEC2009 に出展しました。当展示会では、インテル社のブース内において、グラフィックスLSI「AG10」を搭載した評価基板による表示デモンストラムを展示しました。

インテル社ブース内に出展した  
アクセセル(ESEC)

## 「AG10」がPCI標準化団体の 認証リストに掲載

製品

「AG10」及び「AG10」を搭載した評価基板がPCI標準化団体※のコンプライアンステストに合格し、認証リストに掲載されました。今回、認証リストに掲載されたことにより、「AG10」の信頼性が証明され、組み込み機器製造メーカー様が、より安心してご採用いただける製品となりました。

※CPUと周辺機器を結ぶ汎用の拡張インターフェースであるPCIの規格策定を行なっている業界団体。

2009/7~9

## 株式分割の実施、 単元株制度の採用

IR

7月1日付けにて当社普通株式1株を100株に株式分割するとともに、1単元(投資単位)を100株とする単元株制度の採用を実施しました。詳細は、後記14頁をご参照ください。

## 最先端IT・エレクトロニクス総合展 CEATEC JAPAN 2009 へ出展

イベント

10月6日から10日にかけて開催されたCEATEC JAPAN 2009へ出展しました。昨年に引き続き、経済産業省が中心となって企画している特別展示「ライブコンテンツフロンティア」内の展示となりました。当社は、「AG10」を搭載したデジタルサイネージ※デモや「AG-9」を搭載した卓上型電子POP端末等を展示し、未来のコンテンツ創出を支える技術の可能性を提案しました。



CEATEC JAPAN 2009 出展風景

※デジタルサイネージ:電子看板のこと。一般にディスプレイを用いた情報発信端末を指す。

## 第15期のIRカレンダー

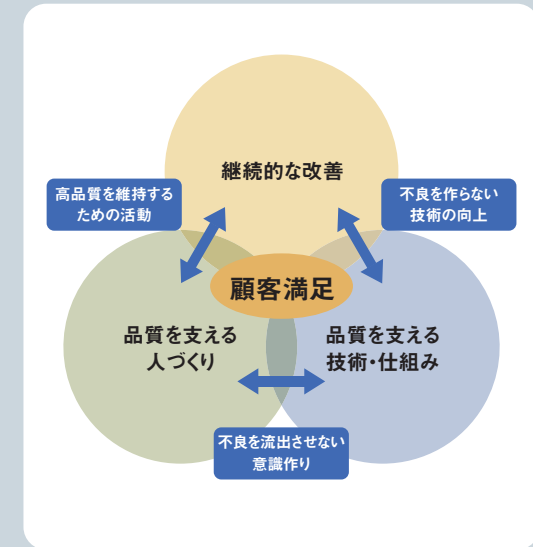
2009/04/28(火)	第14期決算発表
2009/04/28(火)	アナリスト向け第14期決算説明会
2009/04/29(水)・祝	ラジオNIKKEI主催個人投資家向け会社説明会(東京)
2009/05/01(金)	アナリスト向け決算説明会の模様をHPで動画配信
2009/06/21(日)	第14期定時株主総会及び株主向け会社説明会(東京)
2009/07/28(火)	第15期第1四半期決算発表
2009/07/28(火)	HPにて決算のポイントを音声配信
2009/08/20(木)	個人投資家向け会社説明会
-21(金)	(福岡・名古屋)
2009/10/29(木)	第15期第2四半期決算発表
2009/10/29(木)	アナリスト向け第15期第2四半期決算説明会
2009/11/06(金)	アナリスト向け決算説明会の模様をHPで動画配信
2009/12/19(土)	株主向け会社説明会(大阪)
2010/01/28(木)	第15期第3四半期決算発表
2010/01/28(木)	HPにて決算のポイントを音声配信
2010/03	個人投資家向け会社説明会(東京)

※12月以降のIRイベントについては、全て予定であり、中止又は変更される可能性があります。

## 品質向上への取組み(品質マネジメント)

当社では、下記「品質方針」に基づき、品質保証担当を中心に全社的な品質向上に向けた取組みを継続しています。アクセルの品質マネジメントの基本は、高品質を追求する強い意思(人・システム)をベースに、高品質を生み出し支える技術と仕組み、さらに製造委託先と一体となった組織的な改善活動を行なうことにより「高品質」の維持を目指しています。2005年7月には、「ISO9001(2000年版)」の認証を取得し、2009年7月には「ISO9001(2008年版)」に更新しています。高品質と高信頼性の製品を実現するべく、更なる品質管理体制の強化に努めています。

## 高品質のものづくり



## &lt;品質方針&gt;

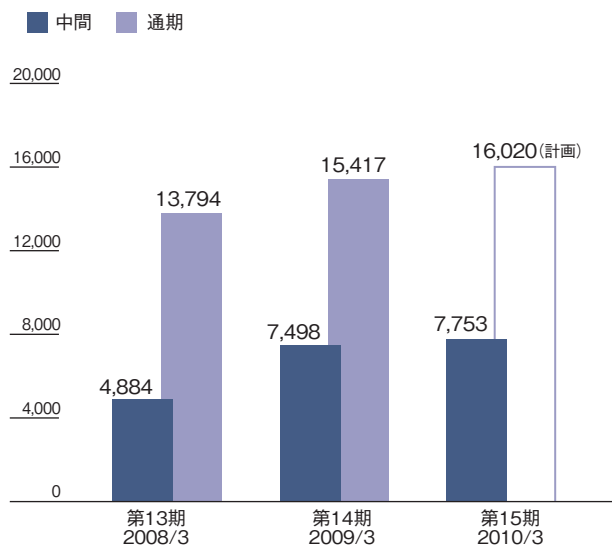
当社は、企業理念にしたがって、顧客第一主義を基本方針とし、以下の品質方針を定める

- ① 創意と努力で顧客の満足に応える製品を提供する
- ② 設計期間の最適化と設計品質の維持向上に徹する
- ③ 製品の品質向上、原価低減、納期遵守を基本とする
- ④ アウトソーシングにおける品質管理システムを確立し、継続的な品質改善を図る

## 売上高

当社の主力製品である遊技機器市場向けグラフィックスLSIは、遊技機器に搭載される液晶表示装置の大型化に対応した「AG301」を中心に、前年同期比23万個増の136万個の販売となりました。当中間期より量産を開始したグラフィックスLSIにサウンド機能等を取り込んだLSI「AG333」は、当社グラフィックスLSI販売総数の約6%を構成しています。また、同市場に向けたグラフィックスLSI以外の各種製品は、「AG333」の量産開始や当社製品採用メーカー様の需要動向等により、前年同期と比較してそれぞれ減少いたしました。遊技機器以外の組み込み機器向けグラフィックスLSIにつきましても、経済環境の低迷に伴い前年同期と比較して減少となっています。以上の結果、当中間期の売上高は7,753百万円(前年同期比3%増)となっています。

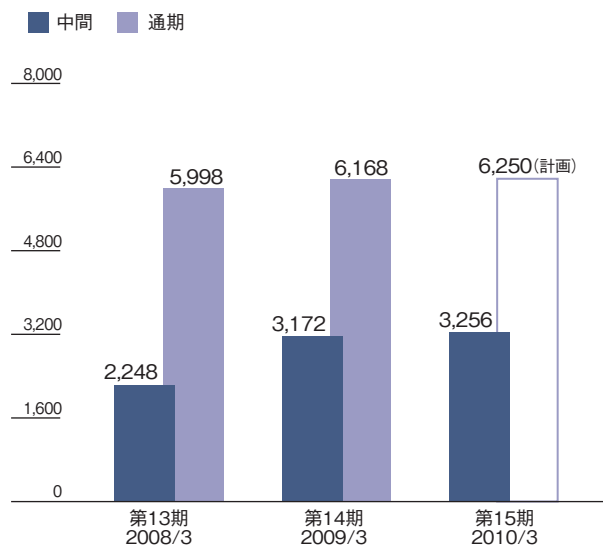
売上高 (単位:百万円)



## 経常利益／当期純利益

当社は「高い収益性の確保」を経営の重要課題の一つとして認識し、経常利益率30%を経営の指標としており、新製品等の投入にあたっての重要な判断基準としています。当中間期の売上総利益は、売上高の増加に伴い前年同期比198百万円増の4,548百万円(同5%増)となりました。売上総利益率では、主に「AG301」の量産効果による仕入コスト低減により約0.7ポイントの改善となりました。販売費及び一般管理費は、試作開発費の増加や開発人員の増員による研究開発費の増加等により、前年同期比102百万円増の1,299百万円(同9%増)となりました。以上により、営業利益3,249百万円(同3%増)経常利益3,256百万円(同3%増)、純利益2,010百万円(同4%増)となりました。当中間期における経常利益率は42%となっています。

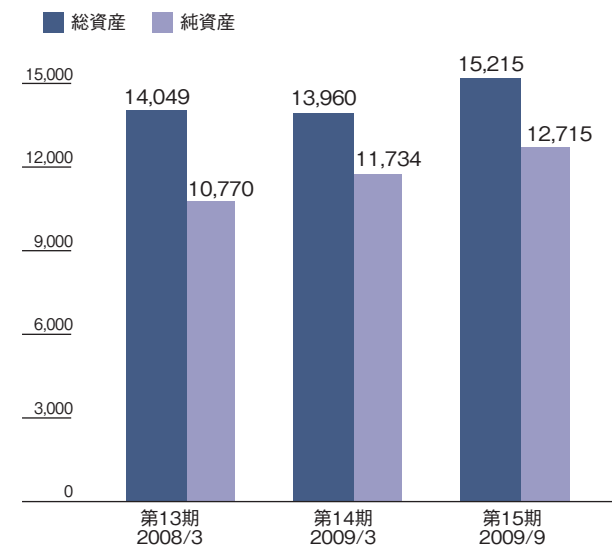
経常利益 (単位:百万円)



## 総資産／純資産

当中間期末の総資産は、前年同期末との比較で1,263百万円増加となる15,215百万円となりました。この増加の主な要因は、前年同四半期以降における事業活動の結果得られた現金及び預金の増加(742百万円)や主力製品の販売増加等に伴う売掛金の増加(443百万円)等であります。また、当中間期末において3,999百万円の有価証券を保有していますが、この有価証券は全て資金の移動を目的とした国庫短期証券であり、現金及び預金と同等の資金と位置づけています。また、純資産は、前年同期末との比較で1,197百万円増加となる12,715百万円となりましたが、これは利益剰余金の増加(1,797百万円)及び自己株式(△597百万円)等となっています。

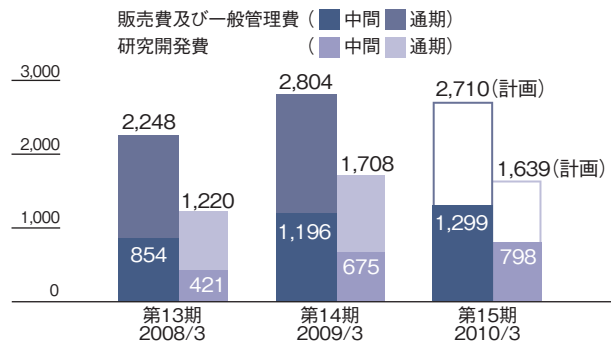
総資産／純資産 (単位:百万円)



## 販売費及び一般管理費／研究開発費

当社は、研究開発型の企業として、販管費のうち研究開発費の占める割合が高いことが特徴となっています。当中間期においては、次世代LSIの開発が順調に進展したこと等を受け、研究開発費が増加しています。

販売費及び一般管理費／研究開発費 (単位:百万円)

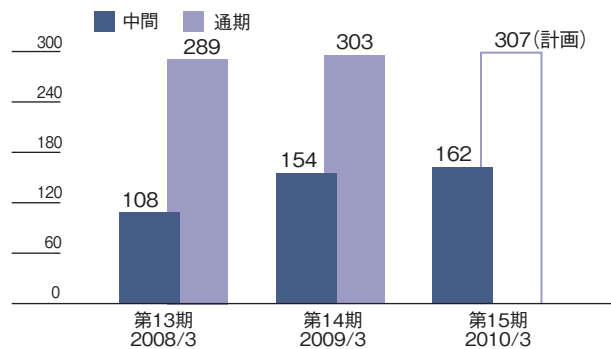


## 1株当たり当期純利益 (EPS)

EPSは、1株当たりの株式価値を表す指標であり、株価の割安・割高を判断する一つの指標である株価収益率 (PER) 等の算出要素となります。

※第13期、第14期につきましては、株主分割に伴う影響を調整した数字を記載しております。

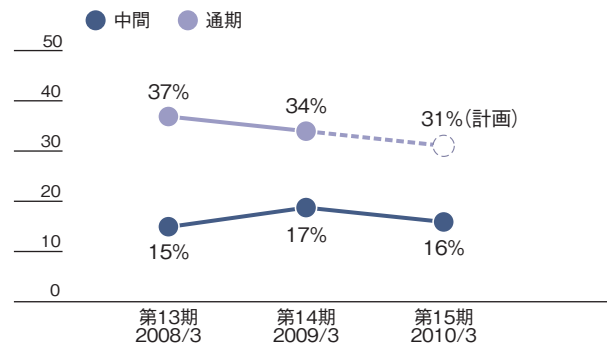
1株当たり当期純利益 (EPS) (単位:円)



## 自己資本利益率 (ROE)

ROEは、株主の皆さまの観点からみた企業の収益性を示す指標です。株主の皆さまの資金を活用して、当期にどのくらいの利益を生み出したかを示しています。

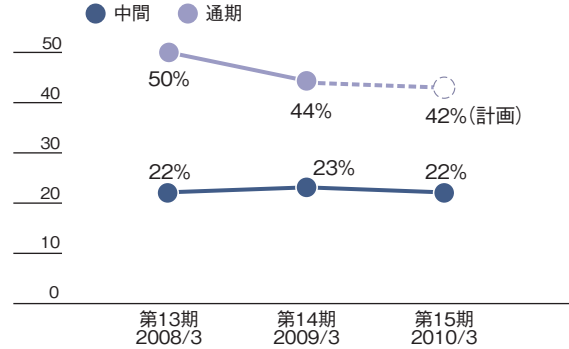
ROE (単位:%)



## 総資産経常利益率 (ROA)

総資産に対する利益率を示した指標です。ROEが株主の皆さまの観点からみた指標であるのに対し、ROAは負債を含めた企業全体の資産からどのくらいの利益を生み出しているかを示しています。

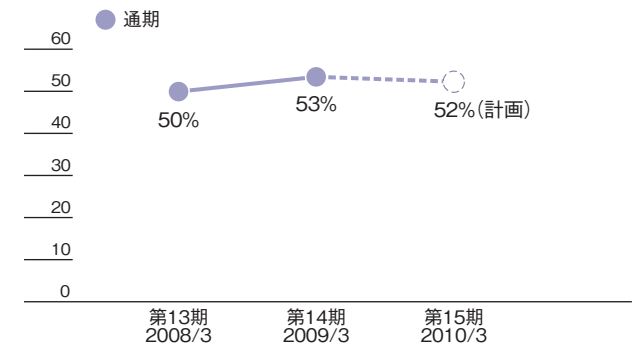
ROA (単位:%)



## 配当性向

配当性向は、最終的な利益である当期純利益のうち、どのくらい配当に充当したかを示す指標です。当社は、高収益を背景とした高い配当性向 (現在50%) を目標として掲げています。

配当性向 (単位:%)



## 株価の推移

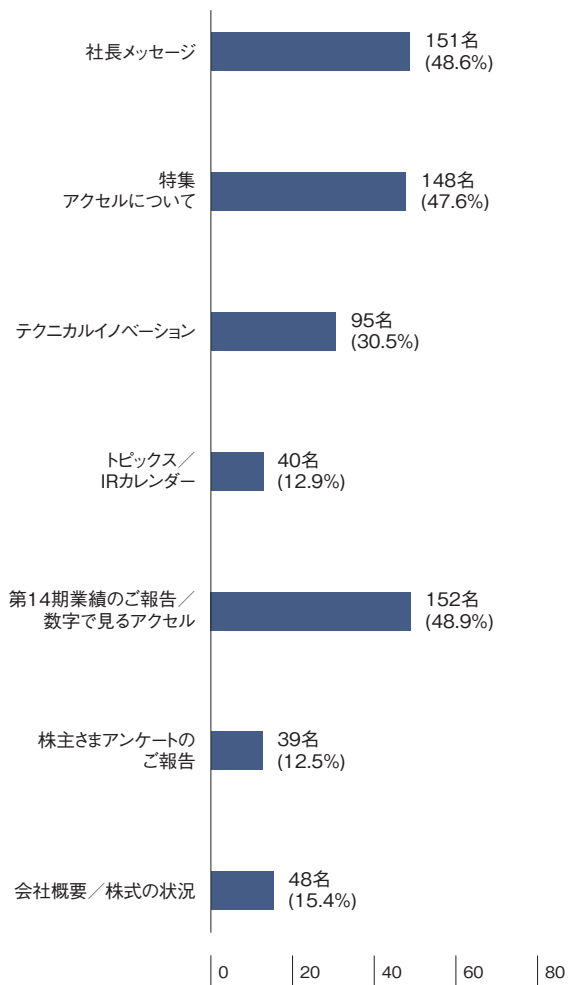
2009年3月末を起点とした株式会社アクセルと日経平均株価の推移を記載したグラフです。2009年3月末の株価を100%として、その後どのように変動したかを示しています。

株価の推移 (単位:%)

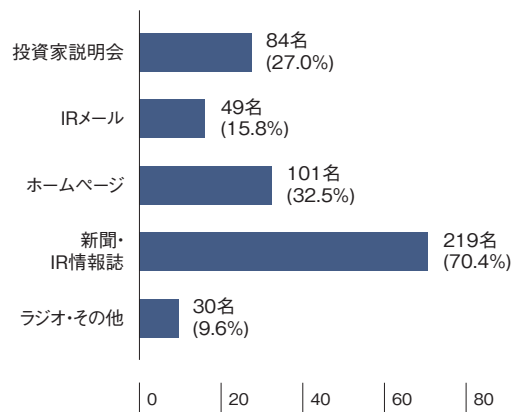


AXELL Investor Relations(第14期 報告書)に同封しましたアンケートにおいて、多くの株主の皆さまからご協力をいただき誠にありがとうございました。集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。皆さまから頂戴したご意見につきましては、今後のIR活動の参考とさせていただきます。

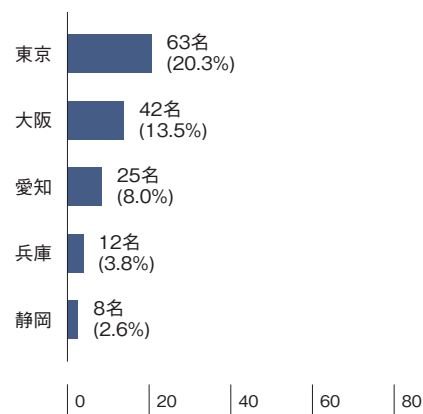
**Q1** 今回の報告書で特に興味を持たれた内容は?(複数回答)



**Q2** 当社に関する情報の入手手段としてどのようなものを希望されますか?(複数回答)



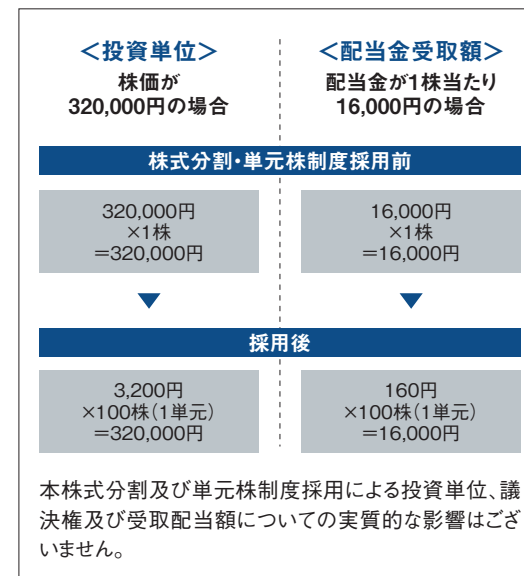
**Q3** 個人投資家向け会社説明会の開催地についてのご意見をお聞かせください。  
・ご希望される開催地(上位5都市)



**株式の分割及び単元株制度の採用について**

当社は、全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨に鑑み、当社株式の売買単位を100株とするため、株式を100分割するとともに1単元の株式数を100株とする単元株制度を2009年7月1日付けにて採用いたしました。本株式分割及び単元株制度採用による投資単位、議決権及び受取配当額についての実質的な影響はございません。なお、株式の分割に伴い、第2四半期以降の1株当たり指標は、分割後の調整を行なった数値となりますので、ご注意ください。

**制度のイメージ**



## 会社概要

**設立年月日** 1996年2月1日

**資本金** 10億18百万円

**社員数** 62名

**事業内容**

- 半導体集積回路及び半導体集積回路を組み込んだプリント基板の設計、製造、販売
- ゲーム機器の設計、製造、販売
- 事務機器の設計、製造、販売
- インターネットを利用した各種情報提供サービス業
- 画像又は音声に関する圧縮伸長処理技術の開発、販売
- ソフトウェアの開発、販売
- 前各号に付帯する一切の事業

**役員**

代表取締役社長 佐々木 譲  
 常務取締役 市原 澄彦  
 取締役 柴田 高幸  
 取締役 千代 進弘  
 取締役 松浦 一教  
 取締役 斉藤 昭宏  
 常勤監査役 吉田 良樹  
 監査役 三村 勝也  
 監査役 五十島 滋夫  
 ※監査役3名は全員社外監査役です。

**所在地**

〒101-8973  
 東京都千代田区外神田四丁目14番1号  
 秋葉原UDX 南ウイング10階  
 TEL 03-5298-1670 FAX 03-5298-1671

**主要取引先**

緑屋電気株式会社  
 インターニクス株式会社  
 岡谷エレクトロニクス株式会社  
 株式会社リョーサン

**URL** <http://www.axell.co.jp/>

## 株式の状況

**発行可能株式総数** 23,112,000株

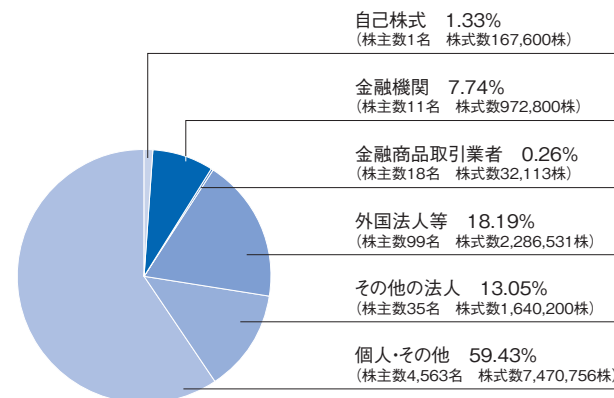
**発行済株式総数** 12,570,000株

**株主数** 4,727名

## 株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
佐々木 譲	1,294,700	10.29
緑屋電気株式会社	720,000	5.72
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	703,700	5.59
市原 澄彦	640,800	5.09
柴田 高幸	594,800	4.73
成田 喜則	501,200	3.98
奥村 龍昭	455,200	3.62
森屋 和喜	414,400	3.29
松浦 一教	388,800	3.09

## 所有者別分布状況



## 株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日

**定時株主総会** 毎年6月

**基準日** 3月31日  
(その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします)

**期末配当金** 3月31日  
**受領株主確定日** (中間配当を実施する場合は9月30日)

**公告方法** 電子公告により当社ホームページ  
(<http://www.axell.co.jp/>)に掲載いたします。  
 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

**株主名簿管理人** 三菱UFJ信託銀行株式会社  
**特別口座 口座管理機関**

**同連絡先** 〒137-8081  
 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 TEL ☎ 0120-232-711 (通話料無料)

## お知らせ

株券電子化によるご注意

- (1)株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、配当金の振込指定、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2)特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取り扱いいたします。
- (3)配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなりました。従来同封いたしておりました当社専用の「配当金振込指定書」は同封を取りやめしております。振込指定のお手続きにつきましては詳しくは各口座管理機関にお問合わせください。
- (4)未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



生分解性に優れたアロマフリー型  
再製大豆油インキで印刷しています。